

作業療法に関する新聞記事数の年次推移

大西正裕*1 井村 亘*1*2

要旨:本研究では、社会の人々の作業療法の認識を高めるための方法の開発に資する知見を得ることをねらいに第一、第二、第三研究を実施した。第一研究では、理学療法、作業療法に関する新聞記事数の年次推移を明らかとすることを目的として調査を実施した。方法は、1986～2018年の新聞記事に含まれる理学療法、作業療法に関する記事を抽出し、記事数の年次推移を折れ線グラフで表記し、近似直線の傾きを算出した。その結果、記事数の年次推移は、理学療法の記事の傾きが14.85であり、作業療法の記事の傾きが5.75であった。このことより、理学療法の記事が作業療法の記事と比べて年次による増加の割合が大きいことが明らかとなった。第二研究では、作業療法に関する新聞記事数の年次推移の分岐点を明らかとすることを目的として調査を実施した。方法は、作業療法の単語が含まれる1986～2019年の記事数の年次推移を折れ線グラフで表記し、研究者2名で目視にて、年次推移の分岐点となる年があるか確認した。結果、2000年を分岐点として2000年までは急激に記事数が増加しているものの、2001年以降には増加の割合が小さくなっていると判断された。第三研究では、作業療法関連の記事に含まれる認知症領域及び発達障害関連の記事数の年次推移を明らかとすることを目的として調査を実施した。方法は、1986～2019年の新聞記事に含まれる「認知症 and 作業療法」および「発達障害 and 作業療法」の単語が含まれる記事を抽出し、記事数の年次推移を折れ線グラフで表記し、近似直線の傾きを算出した。その結果、「認知症 and 作業療法」の年次推移の近似直線の傾きは、0.91であり、「発達障害 and 作業療法」の年次推移の近似直線の傾きは、0.37であった。このことより、作業療法関連の記事に含まれる認知症領域及び発達障害関連の記事数は増加してきていることが明らかとなった。これらの結果は、社会の人々の作業療法に対する認識を高める手掛かりになると考えられ、作業療法士が、社会やリハビリテーション専門職を目指す若い世代へ作業療法士という職業アイデンティティをどう発信していくべきかについての手がかりになると考える。

キーワード: 新聞記事, 作業療法, 年次推移

はじめに

第1回理学療法士、作業療法士学校養成施設カリキュラム等改善検討委員会¹⁾の実態調査による作業療法養成校の定員充足率は、87.4%となっており、定員を満たさない養成校が増えてきている。このことは、作業療法士を目指す者が近年減少してきていることを示している。また、2020年の小学生・中学生・高校生が「大人になったらなりたいもの」調

*1 玉野総合医療専門学校 作業療法学科

*2 川崎医療福祉大学 医療技術学研究科 健康科学専攻 博士後期課程

(〒701-0193 岡山県倉敷市松島 288)

査結果²⁾において、作業療法士は上位ランキングに入っておらず今後も作業療法士を目指す者の減少傾向は続くことが予測される。高校生の職業観に関する調査³⁾によると就業観が不明確なまま進路選択をしている学生が27%いることが明らかとなっている。そのような高校生の就業観の不明確さの大きな要因として作業療法士を含む様々な職種に対する認識不足があることが推測できる。

さて、作業療法士が誕生して55年が経過した現在においても、作業療法に対する社会の人々の認識度は年代によっても異なるものの30~60%台であり、高いとは言い難い^{4,5)}。また、作業療法の内容に対しても十分に認識されていない^{4,5)}。しかし、これらのデータは横断的なものであり、社会の人々の作業療法に関する認識が高まってきているのか、それとも低下してきているのかなどの変遷は明らかではない。社会の人々の作業療法に関する認識の変遷を知ることは、作業療法(士)が抱える課題を把握し、未来に向けて社会に対しどのように貢献していけるのか、どのような課題に向き合っていく必要があるのかを確認する機会にもなり、リハビリテーション専門職である作業療法士の行動指針にもつながるものと考えられる。

マスメディアがどのような話題を取り上げどのくらい報道するかは、社会の人々のその話題についての認識に影響を与えていると考えられている。そのため、作業療法がマスメディアに取り上げられた記事数の推移は、社会の人々の作業療法の認識の程度の変遷を知る手掛かりになると考える。しかし、その推移に対する詳細な分析はされておらず、社会の人々の作業療法に対する認識を高めるための方法の開発に資する知見は十分とはいえない。本研究では、第一研究において、リハビリテーション分野の理学療法と作業療法に関する新聞報道数の年次推移を明らかにし、社会の人々のリハビリテーション分野についての認識の推移を知ること、第二、第三研究では、作業療法の認識を高めるための方法の開発に資する知見を得ることをねらいに作業療法分野に焦点化し調査を実施した。

第一研究

1. 目的

本研究は、理学療法、作業療法に関する新聞報道数の年次推移を明らかにすることを目的として調査を実施した。

2. 方法

調査対象は、普及率が日本で上位2紙である読売新聞と朝日新聞のデータベース閲覧が可能である1986~2018年の朝刊および夕刊とした。調査方法は、2紙のデータベースに対して、キーワードを「理学療法」として検索し、見出しおよび本文中に、理学療法の単語が含まれる記事を抽出した。その後、抽出された2紙の理学療法の単語が含まれる記事の数を年次ごとに合計した。次に、2紙の合計記事数の年次推移を折れ線グラフで表記した。更に2紙の理学療法の各合計記事数の年次推移の傾向を確認するために、近似直線の傾きを算出した。近似直線の傾きは、Microsoft Excel 2010を用いて算出した。作業療法に関しても同様の手順により傾きを算出した。最後に理学療法と作業療法の近似直線の傾きを比較した。

3. 結果

1986年は、理学療法が5記事、作業療法が8記事であり、2018年は、理学療法が524記事、作業療法が197記事であった。記事数の年次推移は、理学療法の記事の傾きが14.85であり（図1）、作業療法の記事の傾きが5.75であり（図2）、理学療法の記事が作業療法の記事と比べて傾きが大きかった。

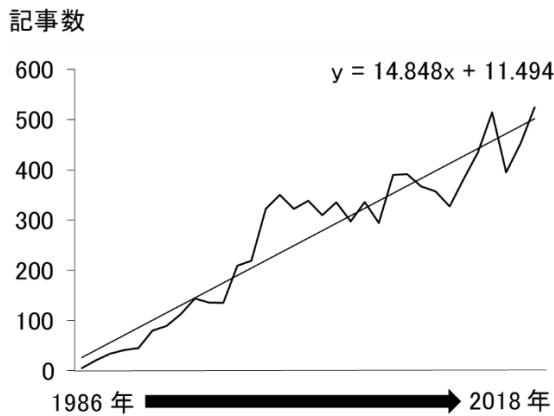


図1 理学療法に関する記事数の年次推移

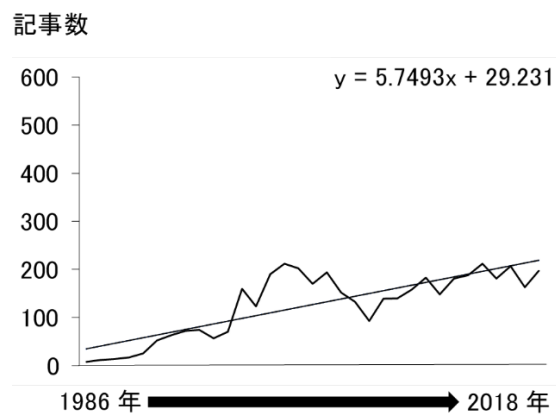


図2 作業療法に関する記事数の年次推移

4. 考察

本研究の結果より、新聞記事における理学療法の記事、作業療法の記事は共に増加していることが明らかとなった。このことは、社会の人々の理学療法および作業療法に対する認識が高まっている可能性を示唆している。しかし、理学療法記事と作業療法記事の増加傾向を示す傾きを比較すると、理学療法記事は作業療法記事と比べて増加の傾向が大きいことが明らかとなった。このことは、社会の人々からは、作業療法と比べると理学療法に対する認識が高まっている可能性を示唆している。

作業療法の認識を高めるための知見を得るためには、更に作業療法の記事数の推移を詳細に検討する必要がある。

第二研究

1. 目的

本研究は、第一研究で得られた知見をもとに作業療法の年次推移を詳細に検討するために、作業療法に関する新聞記事数の年次推移の分岐点を明らかにすることを目的として調査を実施した。

2. 方法

調査対象は、第一研究と同じく読売新聞と朝日新聞の1986～2019年の朝刊および夕刊とした。調査方法は、2紙のデータベースに対して、キーワードを「作業療法」として検索し、見出しおよび本文中に「作業療法」の単語が含まれる記事を抽出した。その後、抽出された2紙の「作業療法」の単語が含まれる記事の数を年次ごとに合計した。次に、2

紙の合計記事数の年次推移を折れ線グラフで表記し、研究者2名で目視にて、年次推移の分岐点となる年が存在するかを確認した。年次推移の分岐点となる年が存在すると確認された場合は、分岐点に対する妥当性を検討することを目的に、「作業療法」の単語が含まれる記事数の年次推移の勾配を示す近似直線の傾きを算出し、その傾きを分岐点となる年までと、その後で比較した。近似直線の傾きは、Microsoft Excel 2010 を用いて算出した。

3. 結果

1986 年は、作業療法の記事数は 8 記事であり、2019 年は 152 記事であった。作業療法の単語が含まれる合計記事数の年次推移を研究者 2 名で確認した結果、2000 年を分岐点として 2000 年までは急激に記事数が増加しているものの、2001 年以降には増加の割合が小さくなっていると判断された。2000 年以前と 2001 年以降の作業療法記事数の年次推移の近似直線の傾きは、2000 年以前の 15 年間 (1986~2000 年) では、13.46 であり (図 3)、2001 年以降の 19 年間 (2001~2019 年) では、1.43 であった (図 4)。すなわち、作業療法の記事数は、2000 年以前と比べて 2001 年以降は、勾配 (増加の割合) が小さかった。

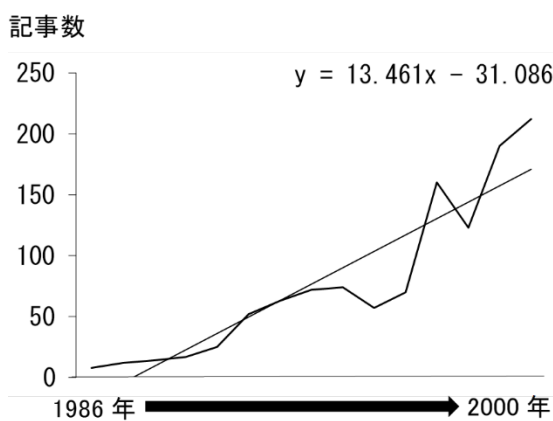


図3 作業療法に関する記事数の年次推移

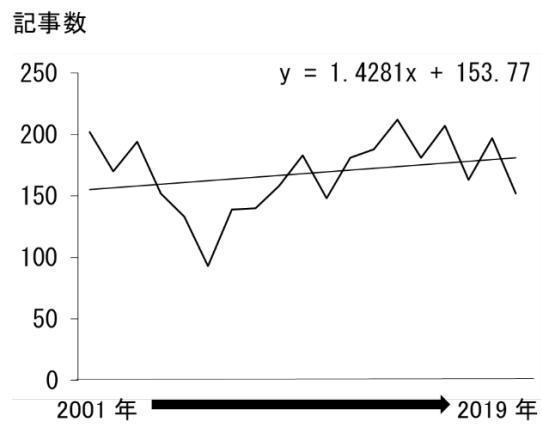


図4 作業療法に関する記事数の年次推移

4. 考察

作業療法の単語が含まれる合計記事数は、2000 年を分岐点として 2000 年までは急激に記事数が増加しているものの、2001 年以降には増加の割合が小さくなっていると判断された。今後は、作業療法に関する記事の内容についての検討が必要である。

第三研究

1. 目的

本研究は、日本作業療法協会の第三次作業療法 5 ヶ年戦略⁶⁾のなかでも重点項目に挙げられている認知症領域、発達障害領域の作業療法に関する記事数の年次推移と作業療法に関する記事における認知症及び発達障害関連の記事の割合の年次推移を明らかにすることを目的として調査を実施した。

2. 方法

調査対象は、第一、第二研究と同じく読売・朝日新聞の1986～2019年の朝刊および夕刊とした。調査方法は、2紙のデータベースに対して、キーワードを「認知症 or 痴呆症」and「作業療法」または、「発達障害」and「作業療法」として検索し、見出しおよび本文中に「認知症 or 痴呆症」「作業療法」及び「発達障害」「作業療法」の両方の単語が含まれる記事を抽出した。その後、抽出された「認知症 or 痴呆症」及び「発達障害」「作業療法」の両方の単語が含まれる2紙の記事の数を年次ごとに合計した。次に、「認知症 or 痴呆症」または、「発達障害」「作業療法」の両方の単語が含まれる2紙の合計記事数の1986～2019年の年次推移の勾配を示す近似直線の傾きを算出した。また、「認知症 or 痴呆症」または、「発達障害」と「作業療法」の両方の単語が含まれる2紙の合計記事数を、「作業療法」の単語が含まれる2紙の合計記事数で除した値に100を乗じ、作業療法関連の記事に含まれる「認知症」「発達障害」の単語を含む記事の割合(%)を年次ごとに算出した。次に、その割合(%)の1986～2019年の年次推移の勾配を示す近似直線の傾きを算出した。近似直線の傾きは、Microsoft Excel 2010を用いて算出した。

3. 結果

「認知症 or 痴呆症」「作業療法」の両方の単語が含まれる記事数は、1986年は0記事、2019年は22記事であり、1986～2019年の年次推移の近似直線の傾きは、0.91であった(図5)。作業療法関連の記事に含まれる「認知症 or 痴呆症」関連の記事の割合は、1986年は0%、2019年は14.5%であり、1986～2019年の年次推移の近似直線の傾きは、0.42であった(図6)。

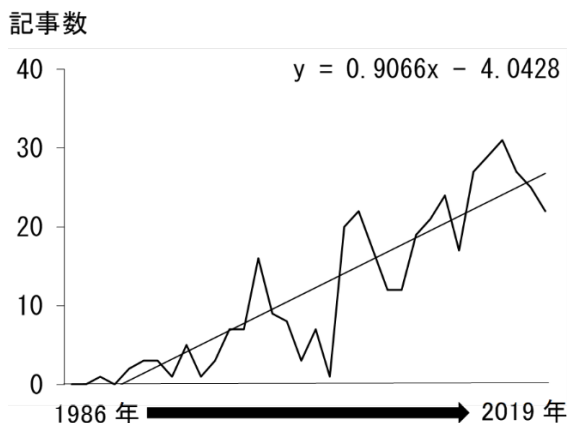


図5 「認知症 or 痴呆症」「作業療法」
両方の記事数の年次推移

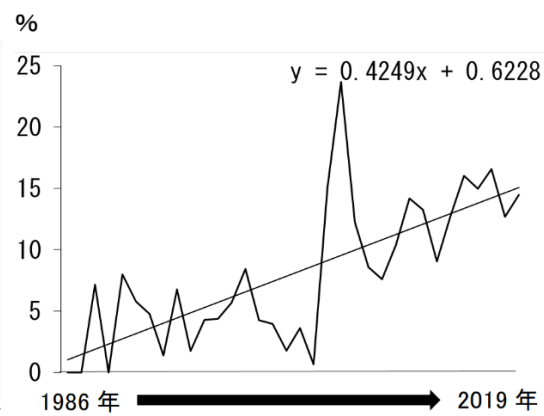


図6 作業療法関連の記事に含まれる
「認知症 or 痴呆症」関連記事の割合の年次推移

「発達障害」「作業療法」の両方の単語が含まれる記事数は、1986年は0記事、2019年は11記事であり、1986～2019年の年次推移の近似直線の傾きは、0.37であった(図7)。作業療法関連の記事に含まれる「発達障害」関連の記事の割合は、1986年は0%、2019年は7.2%であり、1986～2019年の年次推移の近似直線の傾きは、0.21であった(図8)。

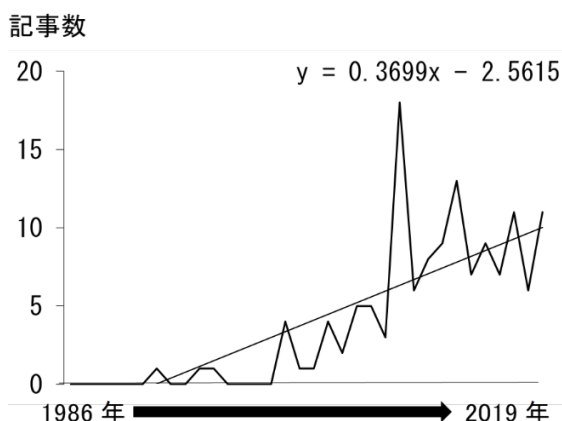


図7 「発達障害」「作業療法」
両方が含まれる記事数の年次推移

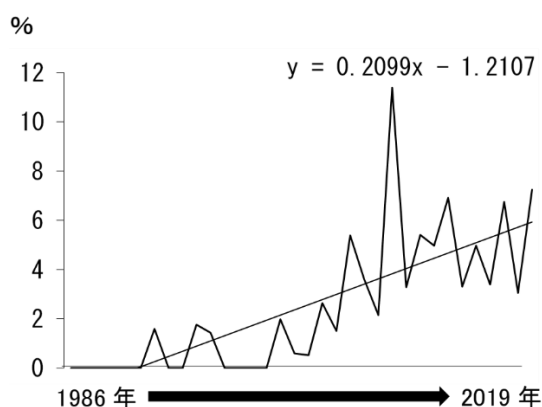


図8 作業療法関連の記事に含まれる
「発達障害」関連記事の割合の年次推移

4. 考察

本研究の結果より、作業療法関連の記事に含まれる認知症及び発達障害関連の記事の数は増加傾向であることが明らかとなった。このことは、社会の人々に認知症及び発達障害領域の作業療法に対する認識が高まっている可能性があることを示唆している。また、作業療法関連の記事における認知症及び発達障害関連の記事の割合も増加していることが明らかとなった。このことは、社会の人々の作業療法全般に対する認識の中でも、特に認知症及び発達障害領域の作業療法に対する認識が高まっている可能性があることを示唆している。

総合考察

本研究では、社会の人々の作業療法の認識を高めるための方法の開発に資する知見を得ることをねらいに作業療法に関する新聞記事数の年次推移について調査を実施した。

その結果、作業療法に関する新聞記事数は増加しているものの、近年の増加傾向は減少していることが明らかとなった。このことから、作業療法について社会の認識が高まってきたものの近年は社会の認識の高まりが停滞していると推察できる。また、そのような状況の中でも、日本作業療法協会の重点項目に挙げられている認知症領域、発達障害領域の作業療法に関する記事数は近年特に増加してきていることが明らかとなった。つまり、これは認知症領域、発達障害領域に関する作業療法に関して、社会の認識が高まっていることを示唆しており、日本作業療法士協会の取り組みの一定の成果が伺える。

さて、日本作業療法協会の第三次作業療法5ヶ年戦略⁶⁾のなかで新規の重点項目として地域包括ケアシステムにおける作業療法士の活動が挙げられている。地域包括ケアシステムについては、厚生労働省を中心として各自治体等が人々に普及啓発しており、今後も更に地域包括ケアシステムについての認識が社会の人々に広まっていくであろう。そのような中で地域包括ケアシステムの認識とともに作業療法についての認識も社会の人々に広まることが推察できる。

現在、インターネットの普及に伴い、若年層の情報収集方法としてインターネットが中

心的な位置を占めている。実際に近年の高校生を対象とした調査⁷⁾によると、職業選択の方法について、インターネットが最も活用されている。日本作業療法協会においてもホームページ機能の充実などを図っており、インターネットを活用した作業療法の普及を実施している。今後も、このようなインターネットを活用した作業療法の広報活動は有効な手段になると考えられる。また、文部科学省は⁸⁾、中学校に対して職場体験の実施を推奨している。そのような実際の職場での体験を通じて各職種に対する認識が高まることは想像に難くない。作業療法に関しても、積極的に生徒の職場体験などを受け入れることは社会の認識を高めることに繋がるであろう。

本研究結果により、時代とともに作業療法士への社会的関心がどのように変遷しているかを知ることができた。そして、近年、社会的に注目されている認知症および発達障害と作業療法との関連が明らかになった。今後も社会に向けて様々な方法や手段を用いて、作業療法の認識を高めていく必要性があり、若い世代に職業選択の職業として認知度・知名度を高める努力が必要であると考えられる。

最後に本研究の限界と今後の課題について述べる。本研究は、作業療法に関する記事数の推移から社会の人々の作業療法に関する認識の推移を読み取っており、実際に社会の人々の作業療法の認識を調査しているわけではない。今後は、社会の人々の作業療法に関する認識を様々な方法を用いて捉えていく必要がある。また、作業療法に関する新聞記事の内容を分析することにより、社会の人々の作業療法の認識を高めるための方法の開発に資する知見が得られるであろう。

結論

今回、作業療法の認識を高めるための方法の開発に資する知見を得るために、理学療法や作業療法に関する新聞報道数の年次推移を調査し、次いでキーワードを「作業療法」「認知症 or 痴呆症」「発達障害」に焦点化し調査を実施した結果、以下のような知見を得た。

1. 新聞記事における理学療法の記事、作業療法の記事は共に増加していることが明らかとなり、社会の人々の理学療法および作業療法に対する認識が高まっている可能性が示唆された。
2. 作業療法の記事数は、2000年以前と比べて2001年以降は増加の割合が小さいことが判断できた。
3. 社会の人々の作業療法全般に対する認識の中でも、特に認知症及び発達障害領域の作業療法に対する認識が高まっている可能性が示唆された。

文献

- 1) 厚生労働省：理学療法士、作業療法士学校養成施設カリキュラム等改善検討会。厚生労働省ホームページ、<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000169004.html> (参照 2021-09-15-17 : 50)
- 2) 第一生命：大人になったらなりたいたいものアンケート。
https://www.dai-ichi-life.co.jp/company/news/pdf/2020_102.pdf (参照 2021-09-15-18:50)
- 3) 社団法人全国高等学校 PTA 連合会・株式会社リクルート合同調査：第4回高校生と保護者の進路に

- 関する意識調査(2009)報告書. http://souken.shingakunet.com/research/2009_hogosha_report.pdf
- 4) 境信哉, 村井真由美, 竹原敦, 中村正三: 作業療法の知名度に関する調査～山形県の場合～. 山形保健医療研究, 第 I 号, 39 - 44, 1998
 - 5) 沢田辰徳, 建木健, 藤田さより, 小川真寛: 一般市民における「作業療法」「リハビリテーション」についての認知調査. 作業療法 30 : 167 - 178, 2011
 - 6) 一般社団法人日本作業療法士協会 第三次作業療法 5 ヶ年戦略: 日本作業療法協会誌, 2021 年 2 月 15 日, 第 107 号
 - 7) 白濱勲二, 安田大典: 神奈川県内高校生の医療福祉職の認知度, 職業選択, 作業療法のイメージに関する実施調査. 神奈川県立保健福祉大学誌, 第 17 巻第 1 号, 71 - 81, 2020
 - 8) 文部科学省: 中学校職場体験ガイド. 文部科学省ホームページ,
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/026/001/001.htm (参照 2021-9-13-18:13)